

介護技術

2009～

科目コード

EA4193

単位数	履修方法	配当年次	担当教員
2	SR(演習)	1年以上	後藤 美恵子



※この科目は2018年度まで開講します。

※受講希望者は8/22までに履修登録とスクーリング申込みを行い、仙台会場で11/10・11にスクーリングを受講し、2019年3月までにレポート提出が必要です。

※2009年度以降に入学した方が対象の科目です。2008年度以前に入学した方は履修登録できません。

科目の概要

■科目の内容

個人の尊厳を保持しながら主体的に生活できるように、介護実践の目的に基づいた生活支援を展開するための知識や実践理論の習得を通して専門技能を体得すると共に、介護理念、専門性を構築します。(1) 介護実践技術の基本目標、介護観についての理解、(2) 生活支援の展開における基本介護の意義、目的の理論的背景に基づいた介護技術の習得、(3) 生活機能アセスメント方法の理解、(4) 個々に応じたケアスキルの展開方法の理解について、学習します。

■到達目標

- 1) 身体各部の名称、運動・移動の原則、生活環境整備について説明できる。
- 2) 体位と姿勢、トランスファーの理論を踏まえ、実践できる。
- 3) 衣生活の理論を踏まえ、実践できる。
- 4) 排泄の理論を踏まえ、実践できる。
- 5) 食事の理論を踏まえ、実践できる。

■教科書(「高齢者福祉論」「介護概論」と共通)

社会福祉士養成講座編集委員会編『新・社会福祉士養成講座13 高齢者に対する支援と介護保険制度(第5版)』中央法規出版、2016年(第5版でなくても可)

(スクーリング時の教科書) 上記教科書を参考程度に使用します。

※テキストを持っていない場合でも受講において支障はありません。

※「高齢者福祉論」で配本のため、この科目での教科書配本はありません。

■履修登録条件

この科目は「高齢者福祉論」をすでに履修登録済みか、同時に履修登録をする方のみが履修登録できます。

■「卒業までに身につけてほしい力」との関連

とくに「専門的知識」「他者への関心と理解」「自己尊重的コミュニケーション能力」「アセスメント力」「問題解決力」を身につけてほしい。

■科目評価基準

レポート評価60%＋スクーリング評価40%

■参考図書

- 1) 介護福祉士養成講座編集委員会編『新・介護福祉士養成講座 6 生活支援技術Ⅰ（第3版）』中央法規出版、2014年
- 2) 介護福祉士養成講座編集委員会編『新・介護福祉士養成講座 7 生活支援技術Ⅱ（第3版）』中央法規出版、2014年
- 3) 介護福祉士養成講座編集委員会編『新・介護福祉士養成講座12 認知症の理解（第3版）』中央法規出版、2016年

■スクーリング受講にあたっての留意事項

「介護技術」のスクーリングは、「高齢者福祉論」「介護概論」の2科目について、学習に取り組んでから受講することをお奨めいたします。

■履修上の注意

2015年度以降入学者は、この科目を高等学校教諭一種免許状（福祉）取得に必要な「教科に関する科目」として使用することはできません。

スクーリング

■スクーリングで学んでほしいこと・学習目標

個人の尊厳を保持しながら主体的に生活できるように、介護実践の目的に基づいた生活支援を展開するための知識や実践理論の習得を通して専門技能を体得すると共に、介護理念、専門性を構築します。(1)介護実践技術の基本目標、介護観についての理解、(2)生活支援の展開における基本介護の意義、目的の理論的背景に基づいた介護技術の習得、(3)生活機能アセスメント方法の理解、(4)個々に応じたケアスキルの展開方法の理解について、学習します。

■講義内容

回数	テーマ	内容
1	介護技術①	身体各部の名称、運動・移動の原則、生活環境整備
2	介護技術②	体位と姿勢、トランスファー
3	介護技術③	衣生活の理論と実践

回数	テーマ	内容
4	介護技術④	排泄の理論と実践
5	介護技術⑤	食事の理論と実践
6	まとめ	
7	スクーリング試験	

■講義の進め方

配付資料にそって、介護の実践技術を修得するための講義と演習を交えながら、授業を進める。

■スクーリング 評価基準

授業への参加状況50%＋スクーリング試験50%（持込可）

試験は単なる知識の確認ではなく、スクーリングで学んだ内容をふまえた上で、試験課題に沿って自身の見解をどれだけ論述できるかを問います。

■スクーリング事前学習（学習時間の目安：5～10時間）

テキスト『新・社会福祉士養成講座13 高齢者に対する支援と介護保険制度』の第13章「介護各論①」をスクーリングを受講する前に読んでおいてください。

レポート学習

■在宅学習10のポイント

回数	テーマ	学習内容・キーワード	学びのポイント
1	第12章 介護過程 第1節 介護過程の概要	・介護保険制度におけるケアマネジメント過程と介護過程の関係について理解する。また、介護過程の概略について理解する。 キーワード：アセスメント（課題分析）、ニーズ、介護計画	・介護保険制度におけるケアマネジメント過程と介護過程の関係、および介護過程の概略について理解し、説明できるようにしましょう。
2	第2節 介護過程の展開技法	・介護過程におけるアセスメントの視点と対象について理解をする。さらに、展開の実際について事例を通して理解を深める。 キーワード：アセスメント、ICF、情報収集、サービスと生活	・介護過程におけるアセスメントの視点と対象について理解し、説明できるようにしましょう。さらに、展開の実際について事例を通して理解を深めましょう。
3	第13章 介護各論① 第1節 自立に向けた介護	・「自立」の概念の理解を深め、自立支援としての介護の展開について理解する。 キーワード：自立支援、阻害要因、依存	・「自立」の概念の理解を深め、自立支援としての介護の展開について理解し、説明できるようにしましょう。

回数	テーマ	学習内容・キーワード	学びのポイント
4	第2節 家事における自立支援	・家事援助における自立支援について理解する。 キーワード：生活援助、家事、自立支援	・家事援助における自立支援について理解し、説明できるようにしましょう。
5	第3節 身支度・移動・睡眠の介護	・身支度・移動・睡眠の介護について理解する。 キーワード：身支度、移動、ボディメカニクス、睡眠の仕組み	・身支度・移動・睡眠の介護について理解し、説明できるようにしましょう。
6	第4節 食事・口腔衛生の介護	・食事・口腔衛生の介護について理解する。 キーワード：食支援、寝食分離、摂食・嚥下過程、口腔ケア	・食事・口腔衛生の介護について理解し、説明できるようにしましょう。
7	第5節 入浴・清潔・排泄の介護	・入浴、清潔、排泄の介護について理解する。 キーワード：入浴の意義、清潔法、排泄動作とアセスメント	・入浴、清潔、排泄の介護について理解し、説明できるようにしましょう。
8	第4章 介護各論② 第1節 認知症ケア	・認知症の中核症状と周辺症状（BPSD）、および原因疾患による症状と進行について理解する。また、認知症高齢者とその家族の支援について理解する。さらに、地域での連携体制について理解する。 キーワード：中核症状、周辺症状、アルツハイマー型認知症、脳血管性認知症、レビー小体型認知症、前頭側頭型認知症、個別化、受容、家族ケア、地域連携体制	・認知症の中核症状と周辺症状（BPSD）、および原因疾患による症状と進行について理解し、また、認知症高齢者とその家族の支援について理解し、説明できるようにしましょう。さらに、地域での連携体制について理解し、説明できるようにしましょう。
9	第2節 終末期ケア	・終末期ケアの概念、および高齢者の終末期ケアの特徴について理解する。また終末期ケアの基本的な考え方について理解する。 キーワード：終末期ケアの概念、終末期ケアの介入方法、グリーフケア	・終末期ケアの概念、および高齢者の終末期ケアの特徴、また終末期ケアの基本的な考え方について理解し、説明できるようにしましょう。
10	第3節 住環境	・高齢者に対する住環境整備について、家族との関係を踏まえ理解する。 キーワード：居住環境、バリアフリー、住環境整備の視点	・高齢者に対する住環境整備について、家族との関係を踏まえ理解し、説明できるようにしましょう。

■レポート課題

1 単位め	要介護者の生活支援を展開する上での基本的な生活支援技術をまとめなさい。その上で、要介護者がその人らしく生活することの意義を考え、それを可能にするために専門職としてあり方について具体的に論述しなさい。
-------	---

2 単位め

認知症高齢者の状態像についてまとめ、中核症状を踏まえた上でBPSD（周辺症状）への対応方法を含め、専門職に求められる認知症介護のあり方について論述しなさい。

※提出されたレポートは添削指導を行い返却します。

■アドバイス
**1 単位め
アドバイス**

専門職として、生活支援（介護）を展開する上での基本的な専門技術について、テキスト第13・14章を参考に理論的根拠を踏まえた上で介護技術の内容について簡潔にまとめてください。テキストでは、間接技術の一つであるコミュニケーションが網羅されておられませんので、他の文献を参考にしてください。専門職としての生活支援のあり方も介護保険導入と共に変化しています。介護保険の基本理念である「利用者本位」「自立支援」を具現化する上でその人らしい生活の意義について自身の考えを述べ、基本的な専門技術の個別展開のあり方についてまとめてください。

**2 単位め
アドバイス**

高齢社会と共に認知症高齢者が増加し、認知症介護についてはゴールドプラン21に基づいて国レベルで取り組まれております。これまで「問題行動」と言われてきた周辺症状も近年では「BPSD」と新たな概念で呼ばれるようになりました。ここでは、新たな介護の専門性を押さえる意味で、テキスト第14章第1節を中心に「認知症高齢者とは」といった状態像をまとめ、認知症高齢者に対する適切な生活支援を展開する上での介護のあり方について、BPSDの対応方法を含めて自分の考えを具体的に述べてください。